

小論文

横浜市立大学 (前期) 1/2

<総括>

試験時間	60分	総解答字数	1,000字
------	-----	-------	--------

昨年度、一昨年度と、あるありうべき状況を設定して、その状況に対応してどのような行動を執るかを問う問題が出題されていたが、今年も同様の問題となった。ただし本年度の異なる点は、昨年度、一昨年度が医学・医療と直接関係のある状況を想定して書かせるものであったのに対し、本年度は差し当たり医学・医療とは関係のない、きわめて一般的な状況を設定して論じさせるものとなっている点である。現代的といえるある状況を設定して、そこで指導的立場に立つ者としてどのように状況を理解し、状況に対応した行動を執るかが問われている。専門家として疫学的な視点に立って危機管理しつつ、人間的な関係を円滑に保ち、所期の目標を着実に達成するための洞察力や判断力が問われる試験であり、医師としての適性を図るのに十分な問題といえる。

<課題文の分析>

大問番号	
内 容 (主題)	農業体験で農家の握ったおにぎりを食べられない高校生たち
出 典 (作者)	
長短・ 難易等 前年比較	長短 (短い・やや短い・ 変化なし ・やや長い・長い) 難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント (設問内容・論述ポイントなど)
	テーマ	一般教養的		論述	1,000字	高校の授業の一環として稲刈りの体験作業があり、自分はそれに同伴した指導者であると想定する。農家の高齢の夫婦がお礼にとおにぎりを握って持ってきてくれたが、多くの生徒は知らない人の握ったおにぎりは食べられないと、たくさん残した。これについてどのように考えるか。また生徒と農家の方にどのように話すか。

※出題形式は「テーマ・課題文 (英文を含む場合は付記する)・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」

＜答案作成上のポイント・学習対策等＞

＜答案作成上のポイント＞

一見するといかにも間の悪い状況で、「知らない人の握ったおにぎりは食べられない」という生徒たちが思も礼儀も知らない現代っ子だと、憤りすら感じるかもしれない。だが農業体験がこのような残念な結果に終わったのは指導者の責任だとして、問題にきちんと向き合い、どこが問題なのかを明確にしていくことが重要である。

そもそも高校の行事において、食中毒や集団感染を予防する手立てを考えておくということは、管理者の責任だろう。かといって農家の夫婦が感謝を表すためにしてくれた行為に対して、かような振る舞いで応えるのは、いかにも非人間的であり、心ない行動といえる。農業体験はかのような行動に陥りやすい現代人に対して、生産し消費する人間の原点を体感させるものであるべきで、その意味で農業体験は失敗していたのである。このように捉えて、それでは今後どのようにすれば、より意義のある農業体験とすることができるか、その手立てを考えていくことになる。

他人によって握られたおにぎりは「汚い」感じがするというが、それでは「汚くない」おにぎりを握ることが自分たちにはできるのか。そのためには食器や手を注意深く消毒し、きれいな手で手早く握ることが大切であり、その一連の動作を自身でやってみることを通じて、誰かが丁寧に握ったおにぎりを食べることを意味を実感することになるだろう。また実際に自分でおにぎりを握ることによって、本当に「美味しい」とはどういうことなのか、それを理解することができるだろう。農業体験とはそのような体験まで含めたものであるべきだということから、答案を書き進めていくとよい。

また設問の要求として、生徒と農家に対する説明を求めている。率直に問題の所在を明確にし、責任回避をせず、爾後どのように対処すべきかを明確にして説明するというのは、医師に不可欠の能力である。誠実で明確な対応を心掛けたい。

＜学習対策＞

横浜市立大医学部の小論文は、一言でいえば医師の備えるべき資質を試す問題であると言ってよい。今年度のように一見すると医学・医療とは無関係に見えても、そこには問題状況に対応したときの問題処理能力や危機管理能力、さらには患者や他の医療スタッフに対する簡にして要を得た説明能力などが問われる。しかもそれを60分という短い時間で1000字の答案に組み立てなければならない。差し当たり医学・医療に関連する小論文の問題をくり返し解き、問われている能力を知り、またそれほど意識せずに執ることができる基本動作となるまで訓練しなくてはならない。